

**委託事業実施内容報告書**  
**平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム(B)】**

**実施内容報告書**

団体名：公益財団法人福島県国際交流協会

**1. 事業の概要**

事業名称	ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業
事業の目的	<p>広い県土を有する本県では、外国出身者が集住しておらず、県内各地に散在して暮らしている。</p> <p>こうした外国出身者が、日常生活をする上で必要かつすぐに使える実用的な日本語能力を習得できるようにするため、平成28年度に文化庁からの委託を受け、文化審議会国語分科会による『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』を参考に指導者等との協議を重ね学習者の要望に合わせた教案を作るなど独自の工夫を加え、県内各地の日本語教室や外国出身者コミュニティと協働して日本語講座を実施するとともに、日本語ボランティアを対象としたスキルアップ研修会も併せて実施した。また、日本語教室空白地域において、日本語教室開設に向けたトライアル日本語講習会を開催し、さらには、これらの事業の成果を広く県民と共有するためにセミナーを開催した。</p> <p>その結果、外国出身者が生活していく上で必要となる日本語の学習を継続して行う必要性を認識したほか、日本語ボランティアのスキル及びモチベーションが向上し、また、県民との事業成果の共有が進むなど、日本語教育体制充実への機運の盛り上がりが見られている。</p> <p>また、平成28年度にトライアル日本語講習会を実施した日本語教室空白地域においては、新たな日本語ボランティア団体が立ち上げられ、日本語教室が開設・運営されることとなった。</p> <p>こうした状況を受けて、平成29年度においては、主に平成28年度において事業の対象とした外国出身者及び日本語ボランティアに対し、平成28年度の事業実施で蓄積したノウハウをもとに日本語講座及び研修会を実施するとともに、引き続き日本語教室空白地域において、開設に向けたトライアル日本語講習会及び日本語ボランティア研修会を開催し、「生活者としての外国人」に対する日本語教育体制のさらなる充実・強化を図ることとする。</p>
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	<p>(日本語教育活動に関する地域の実情)</p> <p>県内で活動している日本語教室は、平成28年度日本語教室空白地域において実施した取組が契機となり、新たに1教室が立ち上げられ、平成29年1月現在、59市町村のうち20市町村に33教室、そのうち13教室については市または町の国際交流協会等が運営し、残りの19教室は日本語ボランティアにより運営されている。日本語ボランティア数、学習者数は、ともに横ばいである。</p> <p>日本語教育を実施している専門機関としては3団体あり、日本での進学や就職を目指す外国出身者等が学習している。</p> <p>(日本語教育活動に関する地域の課題)</p> <p>当協会が外国出身者に行ったアンケート(平成27年8月実施)によると、外国出身者は、日本語が十分に理解できないために、ライフステージに応じた子どもの教育や配偶者の親の介護、遺産相続、葬式への対応、自分の健康や老後のことなどについての知識が不足し、そのため不安に思いながら生活しており、多くの人が必要不可欠かつ役立つ実用的な日本語を習得したいと考えている。しかしながら、地理的及び時間的に通える日本語教室がなかったり、学習内容が自分のニーズに合致していないため教室に通うことをやめたりしており、日本語学習が十分にできる環境にあるとは言い難い状況が続いている。</p> <p>県内の日本語教室では、運営に携わる日本語ボランティアの年齢層が高く、新規ボランティアの参入が少ないことから、メンバーの固定化と減少、さらにはスキルやモチベーションの低下を課題としてとらえているところが少なくない。また、他の教室と連携して互いに情報交換したり、県外の先進的な事例を学び指導や教室運営の参考にしたりする機会が限られていることから、今後とも日本語ボランティアの連携強化とスキルアップを継続して行う必要がある。</p> <p>なお本県は県土面積が広く、約1万人の外国出身者がほとんどの市町村に散在して居住しているが、市町村の中には、外国出身者が全人口に占める割合が比較的高いにも関わらず、日本語教室が無い空白地域があり、日本語の学習を希望する者は、近隣の自治体の日本語教室に通っている。</p> <p>県内には、中国、フィリピン、インドネシア、ベトナム等の外国出身者コミュニティが存在しており、メンバー同士の交流や情報交換をするだけでなく、地域社会に向けて自国の文化の積極的な発信を行っているところもある。しかしながら、そうした外国出身者コミュニティが、日本語学習の場となっていることは少なく、同国出身者同士のコミュニケーションにより生活に必要な情報を得ていることで、かえって日本語能力がなかなか向上しない人も一部に存在する。</p>
本事業の対象とする空白地域の状況	<p>棚倉町は、東白川郡の中心であり、平成27年12月末において81人の在留外国人がいる。(一財)棚倉町活性化協会が立ち上げ、ボランティア団体「ラ・ポール棚倉」が運営していた日本語教室は、学習者の減少や日本語ボランティアの高齢化等の理由により、平成26年3月に活動を休止したため、日本語を学ぼうとする外国出身者は、25キロ離れた白河市の日本語教室などに通わざるを得ない。</p> <p>(一財)棚倉町活性化協会からは、当協会に対し、町内での日本語教室の再開を望む外国出身者の声はあるものの、外国出身者のニーズに対応し継続して実施できる日本語教室のあり方がわからない、また、日本語ボランティアが新たに集まるかどうか不安であるといった相談が寄せられている。</p>
	<p>取組1 既存の日本語教室における日本語講座及び日本語ボランティアスキルアップ研修会 (5か所)</p> <p>○目標</p> <p>県内の日本語教室の学習者に対し、そのニーズに合った内容の生活に役立つ日本語を学習する場を提供する。また、先進的な指導を行う指導者による研修会を行うことにより、日本語ボランティアのスキルアップを図る。</p> <p>○対象者</p> <p>日本語教室に通う学習者及び日本語ボランティア(平成28年度実施しなかった2教室を含む。)</p> <p>○内容及び方法</p> <p>外国人学習者に対しては、各日本語教室の学習者が希望する内容に基づき文化庁のカリキュラム案を参考に、先進的な指導を行っている指導者による日本語講座を5会場を実施した。</p> <p>日本語ボランティアに対しては、先進的かつ実践的な指導方法等について実践的に学ぶため、この日本語講座への参加を研修の一環として位置付け、日本語講座の前後に併せて、「生活者としての外国人のための日本語教育」の理念とその先進的かつ実践的な指導方法について学ぶ研修会を実施した。</p>

事業内容の概要	<p>取組2 外国出身者コミュニティを対象とした日本語講座(11か所)</p> <p>○目標 日本語を学習する機会が少ない外国出身者コミュニティのメンバーに、生活に役立つ実用的な日本語を学習する機会を提供する。日本語学習の成果を実感してもらうことで、特に、普段地域の日本語教室へ通っていないメンバーの今後の日本語学習意欲向上を図る。また、必要に応じて学習のテーマに通じた専門講師を自治体や地域から招き、実技や実習を交えることで、学習した内容に関する理解を一層深めるとともに、地域との連携構築を図る。</p> <p>○対象者 外国出身者コミュニティ(平成28年度に実施しなかった6つの外国出身者コミュニティを含む)</p> <p>○内容及び方法 外国出身者コミュニティが習得を希望する生活に関連するテーマに関わる日本語について、文化庁のカリキュラム案を参考に、日本語講師会議を開催し指導者等と協議して作成した教案により日本語講座を11か所で実施した。 なお、実施した外国出身者コミュニティのうち6つは平成28年度実施していないコミュニティであり、また、地域連携をより一層図るため5つの講座で実技講師の補助者を各5名程度、1つの講座でボランティアを9名取り入れた。</p>
	<p>取組3 新規日本語教室開設に向けたトライアル日本語講習会及び日本語ボランティア研修会(6回)</p> <p>○目標 日本語を学ぶ機会が少ない外国出身者に、生活に役立つ日本語を学ぶ場を提供し、日本語学習への意欲を喚起するとともに、地域の日本語ボランティア希望者に、日本語指導方法研修の機会を提供し、日本語指導者を育成する。 (一財)棚倉町活性化協会に対しては、講習会及び研修会を共同で運営することにより、外国出身者のニーズや日本語ボランティア人材を把握することが可能となることから、将来的に日本語教室の再開設を検討するよう支援する。</p> <p>○対象者 棚倉町及び近隣市町村に居住する日本語学習を希望する外国出身者及び日本語ボランティア希望者</p> <p>○内容及び方法 外国人学習者に対しては、学習者が希望する生活に関連するテーマに基づき文化庁のカリキュラム案を参考に、指導者等と協議して作成した教案により、日本語講座を6回実施した。 日本語ボランティア希望者に対しては、実践的な指導方法等について学ぶため、このトライアル日本語講習会への参加を研修の一環として位置付け、講習会前後に併せて研修会を6回実施した。 これらの講習会及び研修会は、棚倉町における外国出身者のニーズや日本語ボランティア人材を把握し、将来的に日本語教室の再開設ができるようにするため、(一財)棚倉町活性化協会と共同で実施した。</p>
	<p>取組4 日本語教育活動成果発表セミナー</p> <p>○目標 取組1、取組2及び取組3で行われた日本語教育の手法、学習の成果、日本語学習の重要性等について、県内の日本語教育に携わっているボランティア、一般県民等に広く周知することにより、県内の日本語教育の質の向上を図るとともに日本語教育の重要性についての広い理解を得る。</p> <p>○対象者 日本語教育に携わっている日本語ボランティア及びボランティア希望者、一般県民、日本語学習に関心のある外国出身者等</p> <p>○内容及び方法 企画段階から地域コミュニティやNPO等の関係者から意見を聞き、関係者のみならず一般県民も興味を持ってセミナーに参加してもらえるような実施方法や具体的なテーマについて検討し、日本語教育に関する知見があり先駆的な取組を行っている講師による日本語教育の重要性をテーマとする基調講演を行うとともに、当事業に関わった日本語講師、実技講師、外国人参加者及びボランティア研修会参加者からの報告を行った。</p>
事業の実施期間	平成29年5月20日～平成30年3月20日 (11か月間)

## 2. 事業の実施体制

### (1) 運営委員会

#### 【運営委員】

1	井本 亮	福島大学経営経済学類 教授
2	大寺 正晃	須賀川多文化共生ネット 代表
3	何 敏	福島大学国際交流センター 副センター長
4	米勢 治子	東海日本語ネットワーク 副代表
5	幕田 順子	(公財)福島県国際交流協会 主任主査
6	日下部 喜美子	本事業コーディネーター



#### 【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年5月26日 (金) 13:30~15:30	2時間	(公財)福島県国際交流協会	井本亮、大寺正晃、何敏、米勢治子、幕田順子、日下部喜美子	1 今年度の事業概要の説明 2 取組1、取組2及び取組3についての協議
2	平成29年9月14日 (木) 13:30~15:30	2時間	(公財)福島県国際交流協会	井本亮、大寺正晃、何敏、米勢治子、幕田順子、日下部喜美子	1 取組1及び取組3の報告 2 取組2及び取組4についての協議
3	平成30年2月22日 (木) 13:30~15:30	2時間	(公財)福島県国際交流協会	井本亮、大寺正晃、米勢治子、幕田順子、日下部喜美子	1 各取組における報告及び成果と課題についての協議 2 事業全体の成果と課題の取りまとめ及び評価について協議

### (2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<p>1 日本語教室(5つの教室) 取組1において、協働して事業の企画、調整、準備、広報、当日の運営等を行った。 連携団体: (公財)いわき市国際交流協会、NPO法人外国人支援ボランティアグループふれんず、国際交流の会・かるみあ、福島移住女性支援ネットワーク、蓬莱日本語教室</p> <p>2 外国出身者コミュニティ(11のコミュニティ) 取組2において、協働して事業の企画、調整、準備、広報、当日の運営等を行った。 連携団体: 福島中国伝統文化愛好会、福島華僑華人会、つばさ-日中ハーフ支援会、福島多文化団体「心ノ橋」、いわきフィリピンコミュニティ、日中文化ふれあいの会幸福</p> <p>3 実技講師及びその補助者等が所属する団体(8団体) 取組2において、実技講師等として派遣協力していただき、日本語講座の活動を協働して行った。 連携団体: 福島消防署、生活協同組合コープふくしま生活文化グループ、キャリアリバー、相馬警察署生活安全課、福島消防署清水分署、会津大学、いわき市健康推進員協議会(平支部)、福島県立岩瀬農業高校</p> <p>4 (一財)棚倉町活性化協会 取組3において、協働して事業の企画、調整、準備、広報、当日の運営等を行った。</p> <p>5 福島大学 取組4において、大学の日本語教授法の授業として認定するなど広報を協働して行った。</p>
------	--

### (3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

実施事業体制	<p>事業責任者は、本事業全体を掌理し、運営委員会委員、コーディネーター等の委嘱を行うとともに、運営委員会の助言や関係機関との連携により事業を効果的かつ適切に管理し実施した。</p> <p>事業担当者は、事業責任者の命を受け、コーディネーターの指揮監督を行った。</p> <p>コーディネーターは、各取組の実施に向けて、事業企画案の作成、連携団体、指導者、講師等との連絡調整、資料準備、当日の運営等を行った。</p>
--------	--

3. 各取組の報告

＜取組1＞									
取組1	取組の名称	既存の日本語教室における日本語講座及び日本語ボランティアスキルアップ研修会							
	取組の目標	県内の日本語教室の学習者に対し、そのニーズに合った内容の生活に役立つ日本語を学習する場を提供する。また、先進的な指導を行う指導者による研修会を行うことにより、日本語ボランティアのスキルアップを図る。							
	取組の内容	外国人学習者に対しては、各日本語教室の学習者が希望する内容に基づき文化庁のカリキュラム案を参考に、先進的な指導を行っている指導者による日本語講座を5会場で実施した。 日本語ボランティアに対しては、先進的かつ実践的な指導方法等について実践的に学ぶため、この日本語講座への参加を研修の一環として位置付け、日本語講座の前後に併せて、「生活者としての外国人のための日本語教育」の理念とその先進的かつ実践的な指導方法について学ぶ研修会を実施した。							
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備	既存の日本語教室の日本語ボランティアは、普段行っていない指導方法による日本語学習の場に参加し、さらに理念や手法を学ぶにことにより、ボランティアのスキル及びモチベーションの向上につなげることができた。その結果として、本県の日本語教室の体制整備が一層図られた。							
	取組による日本語能力の向上	学習者が必要としている生活に直結した役立つ日本語を学習することができた。さらに実用的な日本語の習得により学習効果が即時実感できたことで、学習意欲の向上が図られた。							
	参加対象者	県内の日本語教室に通う学習者及び日本語ボランティア	参加者数 (内 外国人数)	156人(66人) 外国人66人のうち 学習者58人 日本語ボランティア8人					
	広報及び募集方法	日本語講座については、講座を実施する日本語教室の連絡網による広報・募集を行った。 ボランティアスキルアップ研修会については、チラシを作成し、日本語教室や市町村国際交流協会等に配付した他、当協会HPやSNSを活用して広報した。							
	開催時間数	日本語講座 2時間×5会場 総時間10時間 日本語ボランティアスキルアップ研修会 2.5～3時間×5会場 総時間数13.5時間							
	主な連携・協働先	(公財)いわき市国際交流協会、外国人支援ボランティアふれんず、国際交流の会・かみあ、ふくしま移住女性支援ネットワーク、蓬萊日本語教室							
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
	20	17	0	3	15	0	3	1	
ウクライナ(1人)、ドイツ(1人)、スリランカ(1人)、インド(2人)、オーストラリア(1人)、カンボジア(1人)									
実施内容(上段:日本語講座(外国人学習者数、外国人ボランティア数)、 下段:日本語ボランティアスキルアップ研修会(外国人ボランティア数))									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	6月22日(木) 10:00～12:00 10:00～16:00	2 5	いわき市生涯学習プラザ	39 (18、1) 22 (1) ※スキルアップ研修会のみ参加者1名	お薦めの店や場所を紹介する。	お薦めの店や場所を紹介する。  日本語講座に参加/活動の振り返り/「生活者としての外国人のための日本語教育」の理念と5点セットの使い方/研修の振り返り	インターカルト日本語学校長 加藤早苗		
2	7月2日(日) 14:00～16:00 12:30～16:30	2 4	相馬市生涯学習会館	30 (15、2) 15 (2)	知り合う、親しくなる。	タッピングを活用した名前読みの読み方の学習/自分の好きな食べ物の発表/教室全体での好きな食べ物ベスト3を予想し発表/振り返りシートの記入  「生活者としての外国人のための日本語教育」の理念と手法/対話と会話の違い/タッピングについて/日本語講座に参加/活動の振り返り	(公社)国際日本語普及協会 教師会員 品田潤子		
3	7月3日(月) 10:00～12:00 10:00～16:00	2 5	郡山市総合福祉センター	37 (10、2) 29 (2) ※スキルアップ研修会のみ参加者2名	健康に暮らす。	体の部位名と症状の言い方の学習/病院での受診を想定したロールプレイ/病院の紹介/振り返りシートの記入  日本語講座に参加/活動の振り返り/「生活者としての外国人のための日本語教育」の理念を手法/教材「きりり☆N4」の使い方	インターカルト日本語学校長 加藤早苗		

4	7月23日(日) 14:00~16:00 12:30~17:00	2 4. 5	白河市立図書館	25 (8、1) 17 (1)	健康に暮らす。	母語で「挨拶絵本」の朗読/病院受付を想定したロールプレイ/学習したことの発表/振り返りシートの記入  「生活者としての外国人のための日本語教育」の理念/居場所としての日本語教室/活動におけるプログラミングとその目標/日本語講座へに参加とその振り返り	地球っ子クラブ2000代表 芳賀洋子
5	1月28日(日) 10:00~12:00 10:00~16:00	2 5	福島市蓬莱学習センター	21 (7、1) 15 (2) ※スキルアップ研修会のみ参加者1名	病気やケガの症状を伝える。	タッピングを活用した名前と場所の読み方/体の部位とその名称の確認/救急時を想定したロールプレイ/症状を伝える対話/振り返りシートの記入  日本語講座に参加/活動の振り返り/「生活者としての外国人のための日本語教育」の理念/社会参加のための日本語学習支援	(公社)国際日本語普及協会 教師会員 品田潤子

## (1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### ○取組事例①

【平成29年6月22日(木)】

#### 1 日本語講座(10:00~12:00)

- ・ 学習者は、講師の出欠の確認に応じて返事をした。
- ・ 次に講師が提示した料理の写真を使って、「その料理はどんな味ですか。」や「どこのカレーですか。」などの質問に応えながら、いわきのお薦めの店や学習者の母国料理を紹介した。
- ・ さらに、グループ内で自分が撮ってきた好きな場所の写真を使って、「どこが好きですか。」「〇〇はどこにありますか。」「〇〇が好きですか。」「どうして好きですか。」などの質問に応えながら、好きな場所を紹介した。
- ・ 最後に、自分の好きな料理または場所を全体に紹介し、今日の学習の記録を記入した。

#### 2 日本語ボランティアスキルアップ研修会(13:00~16:00)

- ・ ボランティア同士で、午前中の教室でのボランティアとしての活動を振り返り、講師から午前中の教室での一つ一つの活動の意義や、文化庁5点セットや、教材「weekly J」の使い方の説明を聞いた。
- ・ 続いて、ボランティア同士で、暑中見舞いを教材とした日本語講座の進め方について話し合った後、研修の振り返りを行った。



### ○取組事例②

【平成29年7月23日(日)】

#### 1 日本語ボランティアスキルアップ研修会(12:30~14:00)

- ・ ボランティアは、「『生活者としての外国人』のための日本語教育」や、日本語学校と地域日本語教室の違いや、地域日本語教室の「居場所」としての役割、お互いの学びあいの場のなかで成立する「対話」の意義や、「日本語で何かができた」をプログラムすることの意義を学んだ。
- ・ また、プログラムの最終目標は、学習者が周囲の人から「ありがとう」と言われる状況になることであり、ボランティアは、そのために学習者の発話を引き出すための存在であるということ学んだ。

#### 2 日本語講座(14:00~16:00)

- ・ 学習者は、日本語で、英語で、中国語で、会津弁で「あいさつ絵本」を読んだ。
- ・ ボランティアが病人の役になり、症状を言って何科を受診したらいいか学習者に尋ねたり、学習者の助けを借りて学習者の母語の問診票に記入する活動をした。
- ・ 学習者とボランティアが、活動を通じて分かったことを発表しあった。

#### 3 日本語ボランティアスキルアップ研修会(16:00~17:00)

- ・ ボランティアは輪になって着席し、今日の感想を発表し、それに対し講師がコメントを加えた。
- ・ ボランティアからは、「外国の人がいっぱい話していた。」「学習者からいろいろ教えてもらった。話が脱線してしまった。」などの感想があり、講師からは「発話が学習者8割、ボランティア2割だったら、その教室は成功と考える。」「外国人の人に助けられて教室活動ができる。話が脱線することは学習者の話したいという気持ちの表れだからよい。」などのコメントがあった。



## (2) 目標の達成状況・成果

### 1 検証方法

参加者アンケート及び第3回運営委員会による検証

### 2 成果

- (1) 取組1に参加した外国人学習者に対するアンケート(計50名回答)の中で、「もっと日本語を勉強したいですか」の質問には、すべての学習者が「はい」と回答したことから、今回の講座は、学習者の日本語への学習意欲向上に繋げることができた。さらに、学習者はすでに日本語教室に通っているのに、間を置くことなく通常の日本語学習のモチベーション向上に繋げられる。
- (2) 取組1に参加したボランティアに対するアンケート(計84名回答)の中で、「研修会に参加して良かったか」の質問には、4点満点のところ平均3.9点となったことから、講義と実践を同時に体験できるこの研修会のスタイルはボランティアの満足度を高める効果があった。
- (3) 取組1に参加したボランティアに対するアンケート(計84名回答)の中で、「生活者としての外国人のための日本語教育への理解が深まったか」の質問には、「深まったと思う」(74%)と「まあまあ深まったと思う」(25%)で合わせて99%の人が回答していることから、この日本語教育への理解を深めることができた。
- (4) 1月28日のスキルアップ研修会終了後2名のボランティアが地域の日本語教室に参加して活動を始めた。この研修スタイルは具体的内容が学べるので、日本語ボランティア未経験者にとってボランティア活動への開始に繋がりがやすいものだったと考えられる。

## (3) 今後の改善点について

- (1) 事業の成果をより正確に測るために、「生活者としての外国人のための日本語教育」への理解が深まったボランティアのうち、どのくらいの人  
が、どのような形で、「生活者としての外国人のための日本語教育」を実際の日本語教育活動に取り入れているか、次年度以降、アンケートや聞き取りなどをして追跡調査をする必要がある。
- (2) 県全体をみた場合、今回の取組1に参加したボランティアは一部地域に限られている。さらに多くの日本語ボランティアに「生活者としての外国人のための日本語教育」の考え方を理解してもらうために、地域性を考慮しながら、まだ実施していない日本語教室で開催していくことが必要である。

**<取組2>**

<b>取組2</b>	取組の名称	外国出身者コミュニティを対象とした日本語講座						
	取組の目標	日本語を学習する機会が少ない外国出身者コミュニティのメンバーに、生活に役立つ実用的な日本語を学習する機会を提供する。特に、普段地域の日本語教室へ通っていないメンバーに対しては、日本語学習の成果を実感してもらうことで、今後の学習意欲の向上を図る。また、必要に応じて学習のテーマに関する専門講師を自治体や地域から招き、実技や実習を交えることで、学習した内容に関する理解を一層深めるとともに、地域との連携構築を図る。						
	取組の内容	外国出身者コミュニティが習得を希望する生活に関連するテーマに関わる日本語について、文化庁のカリキュラム案を参考に、日本語講師会議を開催し指導者等と協議して作成した教案により日本語講座を11か所で実施した。 なお、実施した外国出身者コミュニティのうち6つは平成28年度実施していないコミュニティであり、また、地域連携をより一層図るため5つの講座で実技講師の補助者を各5名程度、1つの講座でボランティアを9名取り入れた。						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動						
	取組による体制整備	外国出身者コミュニティと協働して日本語講座を行うことにより、外国出身者の日本語を自主的に学習しようとする意欲が向上し、外国出身者コミュニティ自らの日本語教室の開設や、既存の日本語教室への参加者の増加等の効果を期待することができる。						
	取組による日本語能力の向上	学習者が学びたいテーマに沿った生活する上で役立つ日本語を学ぶことができたため、外国出身者の日本語能力及び日本語学習意欲の向上につながった。						
	参加対象者	県内の外国出身者コミュニティのメンバー等	参加者数 (内 外国人数)	140人 (140人)				
	広報及び募集方法	外国出身者コミュニティのキーパーソンによるSNS及び当協会のHPなどのSNSを活用した広報と募集						
	開催時間数	総時間40時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先							
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	68	32	0	1	24	0	4	1
カンボジア(1人)、トルコ(1人)、アメリカ合衆国(2人)、フィジ(1人)、香港(1人)、ドイツ(1人)、オーストラリア(1人)、ロシア(1人)、バングラディシュ(1人)								

**実施内容**

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	8月27日(日) 10:00~15:30	4	福島県消防学校他	11	防災に役立つ日本語	福島県総合防災訓練への参加/避難所マップでの避難経路の確認/非常時持ち出し袋の品物/振り返りシートの確認	吉田千鶴子、谷明子	
2	9月3日(日) 13:00~17:00	4	福島市立吉井田学習センター	18	自分の居場所を伝える日本語	自分の名前の伝え方/タクシーや救急車を呼ぶときの日本語/119番通報訓練/振り返りシートの記入	青山孝男、谷明子	
3	10月1日(日) 10:00~14:00	4	福島市市民会館	27	料理に役立つ日本語	切り方、調理器具の名称/太巻きなどの調理実習/レシピの作成/振り返りシートの記入	佐々木千賀子、青山孝男、菅野恵理子	土屋陽子 他4名
4	10月7日(土) 9:00~12:00	3	福島県国際交流協会	10	仕事上で使う日本語	ビジネスマナーの実習/ビジネスで使う日本語/同僚の家族が亡くなったときの日本語/振り返りシートの記入	佐々木千賀子、吉田千鶴子、鈴木修子	
5	10月22日(日) 13:00~16:00	3	須賀川市立岩瀬公民館	12	コミュニケーションを円滑にするための日本語	間違っって使った日本語の共有/「大雪で出勤が遅れそうなどとき」に使う日本語など/日本語の特徴/振り返りシートの記入	三田真理子、奥秋和夫	
6	10月28日(土) 13:30~16:30	3	いわき市生涯学習プラザ	8	茶道のお点前で使う日本語	茶道で使う日本語/茶道体験/茶道についての質疑応答/振り返りシートの記入	谷明子、佐々木千賀子、小松宗具	鈴木宗恵 他3名
7	10月29日(日) 13:00~16:00	3	相馬市総合福祉センター	9	安全に暮らすための日本語	防犯の日本語/警察官の話を聞く/110番のかけ方実習/振り返りシートの記入	菊地紀子、奥秋和夫、橘雅之	
8	11月5日(日) 10:30~12:30	2	野田町カトリック教会	10	緊急時に役立つ日本語	自分の名前と住所の言い方/心肺蘇生法の実習/119番のかけ方の実習/振り返りシートの記入	谷明子、吉田千鶴子、茂木正三他2名の消防署員	

9	11月12日(日) 10:00~15:00	5	鶴城コミュニ ティセンター 他	14	町の中で道を聞い たり買い物をする ときに使う日本語	行き方と場所、お薦めを尋ねる日 本語/街なかウォークラリー/ ウォークラリーで聞き取ったことの 発表/振り返りシートの記入	青山孝男、 吉田千鶴子	小原孝子 他5名
10	11月23日 (祝・木) 10:00~14:00	4	いわき市中 央台公民館	12	料理に役立つ日本 語	食材・切り方の日本語/お雑煮の 調理実習/振り返りシートの記入	三田眞理子、 青山孝男、 中島幸江	堀江恵子 他3名
11	11月26日(日) 10:00~15:00	5	郡山市中央 公民館	9	料理に役立つ日本 語	食材・切り方の日本語/お雑煮の 調理実習/レシピの作成と発表/振 り返りシートの記入	菊地紀子、 吉田千鶴子、 上野敬子	北原利江 他4名

## (1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### ○取組事例①

【平成29年10月1日(日)】

- ・ 学習者は、ねらいとこれからの予定を確認し、写真カードを見ながら、切り方、調理器具の名称を学習し、実技講師等の指導のもと「太巻き」「四方巻き」「お吸い物」を調理し、その後、実技講師等と会話しながら試食した。
- ・ 次に、今日の活動を思い出しながら、「太巻き」「四方巻き」「お吸い物」のいずれかの作り方を日本語で再現し、発表し、学習者は、実技講師からのコメントを聞いた。
- ・ 最後に、振り返りシートを記入した。



### ○取組事例②

【平成29年11月12日(日)】

- ・ 学習者は、ねらいと人と会うときの会話、行き方と場所を尋ねる言葉、「お薦めは何ですか?」など買い物での会話を確認した。
- ・ 次に、ウォークラリーの説明を聞いた後、街中に出て、お店でお勧めの物や商品の説明を聞いた。
- ・ 教室に戻り、ウォークラリーで聞き取ったことを発表した後、振り返りシートを記入した。



## (2) 目標の達成状況・成果

### 1 検証方法

参加者アンケート及び第3回運営委員会による検証

### 2 成果

- (1) 学習者が、自分が希望する体験を通じて日本語を学ぶことにより、学習者の学習意欲が高まり、学習効果が上がった。
- (2) 実技講師及びその補助者、ボランティアとして地域住民の協力を得たことで、地域住民の外国人に対する日本語教育への理解の向上に繋がった。
- (3) 実技講師及び補助者として協力した地域住民が、教室活動が進行する中で学習者とともにやさしい日本語を使ってコミュニケーションを図っていくという行動変化が見られた。この取組によって、地域住民の外国人とのコミュニケーションにおける意識改革にも繋ぐことができた。
- (4) 講座終了後、ベトナム出身者コミュニティから春節のイベントに日本語講座の講師を招待したいと申し入れがあった。実技講師が招待を受けてイベントに参加する。今回の日本語講座がベトナム出身者コミュニティと地域の日本人の交流のきっかけとなった。
- (5) 消防署と協力をして119番通報訓練を2回計画し、1回実施できた。今回の連携を通して119番通報を受ける消防署員の話し方がさらに改善されるのではないかと期待できる。
- (6) 茶道の体験、料理の体験、街歩き体験、防災訓練への参加など、毎回日本語講師が工夫を凝らした教材や活動を準備した。この教材や経験の蓄積が財産となっている。

## (3) 今後の改善点について

- (1) 実用的なテーマを決めての1回限りの日本語講座は、イベント的な要素が強く、学習者の継続的な学習につながらない。この講座を受講してもっと日本語を勉強したいという学習者のモチベーションを実際の学習に繋ぐ具体的方策を考える必要がある。
- (2) 県協会が主催する日本語講座なら何回でもやってほしいという希望を外国出身者コミュニティから聞くと、今後は自分たちの必要に応じた日本語講座を自分たちで主催できるよう団体として力をつける必要がある。県協会としてそのサポートが必要である。
- (3) 外国出身コミュニティのメンバー自ら、継続的な日本語学習の場が設定できるよう、日本語教室や地域の日本人、公共施設等との連携が必要である。
- (4) 日本語講師と実技講師の連携がうまくいかない日本語講座があった。日本語講師と実技講師が事前に顔を合わせて、しっかり打ち合わせができる機会を確保したい。
- (5) 11回実施した日本語講座のノウハウを、教材として記録し誰でも活用できるようにすることが求められる。

**<取組3>**

<b>取組3</b>	取組の名称	新規日本語教室開設に向けたトライアル日本語講習会及び日本語ボランティア研修会							
	取組の目標	日本語を学ぶ機会が少ない外国出身者に、生活に役立つ日本語を学ぶ場を提供し、日本語学習への意欲を喚起するとともに、地域の日本語ボランティア希望者に、日本語指導方法研修の機会を提供し、日本語指導者を育成する。 (一財)棚倉町活性化協会に対しては、講習会及び研修会を共同で運営することにより、外国出身者のニーズや日本語ボランティア人材を把握することが可能となることから、将来的に日本語教室の再開設を検討するよう支援する。							
	取組の内容	外国人学習者に対しては、学習者が希望する生活に関連するテーマに基づき文化庁のカリキュラム案を参考に、指導者等と協議して作成した教案により、日本語講座を6回実施した。 日本語ボランティア希望者に対しては、実践的な指導方法等について学ぶため、このトライアル日本語講習会への参加を研修の一環として位置付け、講習会前後に併せて研修会を6回実施した。 これらの講習会及び研修会は、棚倉町における外国出身者のニーズや日本語ボランティア人材を把握し、将来的に日本語教室の再開設ができるようにするため、(一財)棚倉町活性化協会と共同で実施した。							
	<input checked="" type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	取組3は、空白地域での活動						
	取組による体制整備	(一財)棚倉町活性化協会は、当協会と講習会及び研修会を共同で運営することにより、外国出身者のニーズやボランティア人材を把握することが可能となり、今後の棚倉町における日本語教室の開設に向けた検討材料とすることができた。 また、ボランティア研修会の開催を通じて、高齢化したボランティアに代わる新たな日本語ボランティアを養成することができ、日本語教室再開設の際の日本語ボランティアの担い手の把握に繋がった。							
	取組による日本語能力の向上	これまで白河市等の近隣市町村に通っていた外国出身者の負担を減らし、利便性が高く継続的な学習の場を提供することができた。また、生活に役立つ実用的な日本語の学習により学習効果を即時実感することが可能となり、外国出身者の日本語学習への関心が高まるとともに、日本語習得への意欲の継続・向上につながった。							
	参加対象者	棚倉町及び近隣市町村に居住する日本語学習を希望する外国出身者及び日本語ボランティア希望者	参加者数 (内 外国人数)	111人(43人) 外国人43人のうち 学習者38人 日本語ボランティア5人					
	広報及び募集方法	(一財)棚倉町活性化協会がチラシを作り、町内及び近隣町村に配布し広報と募集。また、棚倉町内の技能実習生がいる企業に出向き募集。当協会のHPなどのSNSを活用した広報と募集。							
	開催時間数	トライアル日本語講習会 2時間×6回 総時間 12時間(空白地域12時間) 日本語ボランティア研修会 1～3時間×6回 総時間数 20時間 (内12時間はトライアル日本語講習会への参加)							
	主な連携・協働先	(一財)棚倉町活性化協会							
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
	5	24	0	0	6	0	0	0	
カナダ(4人)、アメリカ合衆国(4人)									
<b>実施内容(上段:日本語講座(外国人学習者数、外国人ボランティア数)、 下段:日本語ボランティアスキルアップ研修会(外国人ボランティア数))</b>									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	7月29日(土) 13:30～15:30 10:00～16:00	2 2.5	棚倉町立図書館	22 (8、1) 14 (1)	自己紹介	卓上名札作り/自己紹介文の作成と発表/振り返りシートの記入  地域に暮らす外国人/望ましい日本語教室/日本語教室の形態/やさしい日本語/日本語講習会参加/活動の振り返り	菊地紀子、 奥秋和夫		
2	8月5日(土) 13:30～15:30 13:00～16:00	2 1	棚倉町立図書館	19 (6、1) 13 (1)	故郷を紹介する。	地図上で故郷の場所の確認/紹介文の作成と発表/振り返りシートの記入  日本語ボランティアの役割/日本語講習会参加/活動の振り返り	菊地紀子、 三田真理子		
3	8月19日(土) 13:30～15:30 13:00～16:00	2 1	棚倉町立図書館	19 (6、1) 13 (1)	病院に行く。	体の部位の名称/症状を表す日本語/症状と病院名のマッチング/医師と患者に会話文作成と発表/振り返りシートの記入  日本語ボランティアの役割/日本語講習会参加/活動の振り返り	菊地紀子、 三田真理子		
4	8月26日(土) 13:30～15:30 13:00～16:00	2 1	棚倉町立図書館	14 (4、0) 10 (0)	表示を見て質問する。	営業や薬の服用の表示を見て質問し合う/振り返りシートの記入  日本語ボランティアの役割/日本語講習会参加/活動の振り返り	菊地紀子、 青山孝男		

5	9月2日(土) 13:30~15:30 13:00~16:00	2 1	棚倉町立図書館	16 (7、1) 9 (1)	経験を話す。	自分の経験について話す/相手の経験について質問する/自分の経験文を書き発表する/振り返りシートの記入  日本語ボランティアの役割/日本語講習会参加/活動の振り返り	菊地紀子、 奥秋和夫	
6	9月9日(土) 13:30~15:30 13:00~16:30	2 1.5	棚倉町立図書館	21 (7、1) 14 (1)	気持ちを伝える。	感情の言葉/「~たい」の文書作成と発表/振り返りシートの記入  日本語ボランティアの役割/日本語講習会参加/活動の振り返り/地域における日本語教室のあり方	菊地紀子、 青山孝男	

## (1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### ○取組事例①

【第1回 平成29年7月29日(土)】

- 1 ボランティア研修会
  - ・講師と参加者が自己紹介をした。
  - ・棚倉町に教室を作ったら、どのような人が教室に来るかグループで話し合った。
  - ・自分が学習者なら、どんな風に日本語教えてもらいたいかグループで話し合った。
  - ・やさしい日本語について学んだ。
  - ・午後からの日本語指導の流れと日本語ボランティアとしての心構えについて確認した。
- 2 日本語教室
  - ・名札と名前カードを記入した。
  - ・自己紹介をした。
  - ・振り返りシートに記入した。
- 3 ボランティア研修会
  - ・今日の活動を振り返って、感想を書いてグループで話し合った。(よかったこと・困ったこと・気づいたこと)
  - ・グループで話し合った内容を全体共有した。



### ○取組事例②

【第6回 平成29年9月9日(土)】

- 1 ボランティア研修会
  - ・日本語講座の流れを確認した。
  - ・感情を表す言葉をどうやさしく伝えるかをボランティア同士話し合い、確認した。
- 2 日本語教室
  - ・感情を伝える言葉の確認後、その言葉を使って文を作った。
  - ・「～たい」「～たくない」の言い方を理解し、文を作った。
  - ・来日した時の気持ち、現在の気持ちを作文し発表した。
  - ・全員がテーブルを囲めるように机を移動し、全員で6回の日本語講座に参加した感想を話した。
  - ・振り返りシート及びアンケートに記入した。
- 3 ボランティア研修会
  - ・6回の日本語講座及びボランティア研修会を振り返って、感想を発表した。
  - ・今後の日本語教室について話し合った。



## (2) 目標の達成状況・成果

### 1 検証方法

参加者アンケート及び第3回運営委員会での検証

### 2 成果

取組3を実施した棚倉町では、日本語教室は立ち上がらなかったが、取組3の参加者有志が、白河市内で「FROMココ白河」という任意団体を立上げて、白河市で日本語教室を開始した。なお、この団体は、今後棚倉町でも日本語教室を実施する意向があり、その際には棚倉町の(一財)棚倉町活性化協会が側面支援することとなった。

## (3) 今後の改善点について

### 課題

- (1) 棚倉町の在留外国人数は91名であり、東白川郡の中核的自治体であり周辺市町村も含めると375名となることから、日本語教室開設のニーズがあると見込んだ。しかし、棚倉町活性化協会も日本語教室参加者募集を広く東白川郡全域に対して行ったり、技能実習生を受け入れている地元企業にも足を運んだが、土曜日は勤務日のため参加できないとの回答があり、結果的に日本語教室の参加者数は、想定していた10名よりも少なかった。今後は、学習者のニーズに合った曜日設定が必要である。
- (2) 今回の研修を通して、立ち上がった「FROMココ白河」が、棚倉町で学習者のニーズにあった日本語教室の活動ができるように、教材や広報、運営方法などの相談、地域の自治体や日本語教室などの関係機関との橋渡しを行っていく必要がある。

**<取組4>**

<b>取組4</b>	取組の名称	日本語教育活動成果セミナー							
	取組の目標	取組1、取組2及び取組3で行われた日本語教育の手法、学習の成果、日本語学習の重要性等について、県内の日本語教育に携わっているボランティア、一般県民等に広く周知することにより、県内の日本語教育の質の向上を図るとともに日本語教育の重要性についての広い理解を得る。							
	取組の内容	企画段階から地域コミュニティやNPO等の関係者から意見を聞き、関係者のみならず一般県民も興味を持ってセミナーに参加してもらえるような実施方法や具体的なテーマについて検討し、日本語教育に関する知見があり先駆的な取組を行っている講師による日本語教育の重要性をテーマとする基調講演を行うとともに、当事業に関わった日本語講師、実技講師、外国人参加者及びボランティア研修会参加者からの報告を行った。							
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備	セミナーの開催により、外国出身者が日本語を学習することについてのさらなる理解、日本語ボランティア同士のネットワーク構築、それによる地域における日本語学習の環境づくり等が進み、ひいては県全体の日本語教育体制のさらなる充実・強化につながった。 また、外国出身者が日常生活を送る中でどのような日本語を学びたいと考えているか、どのように地域住民と交流したいと考えているか等への理解も深まることで、今後の地域での交流のさらなる円滑化も期待できる。							
	取組による日本語能力の向上								
	参加対象者	日本語教育に携わっている日本語ボランティア及びボランティア希望者、一般県民、日本語学習に関心のある外国出身者等	参加者数 (内 外国人数)	43人 (2人)					
	広報及び募集方法	当協会ホームページへの掲載、当協会メールマガジン・SNS等による広報、県内の日本語教室を対象とするメーリングリストによる広報、印刷物の配付、報道機関への投込み等により、広報及び募集を行った。							
	開催時間数	3時間							
	主な連携・協働先	市町村国際交流協会、日本語教室、外国出身者コミュニティ、福島大学							
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
	2								
<b>実施内容</b>									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	講師名	発表者名	
1	2月3日(土) 13:00~16:00	3	福島県国際交流協会	43	日本語いろいろ、日本語教室いろいろ	基調講演「生活者としての外国人のための日本語教育のありかた」 パネルトーク「各取組に関わって(参加して)」	結城恵	佐久間友行、 佐々木千賀子、 青山孝男、 城坂愛、 石橋英子	

## (1) 特徴的な活動風景

### ○取組事例①

【平成30年2月3日(土)】

- 1 基調講演 「『生活者としての外国人』のための日本語教育のあり方」  
講師：群馬大学 大学教育・学習支援機構 大学教育基盤センター 教授 結城恵氏
- 2 ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業報告
- 3 パネルトーク 「日本語いろいろ、日本語学習法もいろいろ」  
報告者：調理実習を取り込んだ日本語講座の日本語講師  
町探検を取り込んだ日本語講座の日本語講師  
日本語ボランティア研修会の参加者  
コミュニケーションを円滑にするための日本語講座参加者(中国出身学習者)  
救命救急士



## (2) 目標の達成状況・成果

### 1 検証方法

参加者アンケート及び第3回運営委員会での検証

### 2 成果

- (1) セミナー参加者数の目標数30名を超える43名の参加者数があり、うち12名は、これまで日本語ボランティア活動に関わったことのない参加者だったことから、「『生活者としての外国人』のための日本語教育」への理解者のすそ野を拡大することができた。
- (2) 参加者に対するアンケートの中の「『生活者としての外国人』のための日本語教育への理解が深まったか」について、「深まった」と回答した割合が、昨年度の47%に対し、今年度は76%と伸びたことから、この教育への理解を質的に深めることができた。
- (3) 基調講演の講師からの「『生活者としての外国人』のための日本語教育」の「目的」に記載されている「言語・文化の相互尊重を前提に」という意味は何なのか、「目標」に記載されていることの主語は誰かという問いかけは、日本語教育が単なる言語教育ではなく多文化共生の考え方に基づいていることへの気づきを参加者に促すことに繋がった。
- (4) 外国人参加者から、「中国では『主人』は犬と飼い主の関係みたいなので、使えない」など、具体的な話があったことから、参加者は、日本語学習者が母語話者とは違う日本語への感性を持つことへの理解を深めることができた。
- (5) 福島大学人間発達学類の日本語教授法の先生と連携しこのセミナーを単位として認定することとしたため、若い世代の大学生8名が参加し、さらに質疑応答の際には発言するなど、セミナーの活性化に繋がった。

## (3) 今後の改善点について

- (1) 今回のセミナーへの参加を通じて日本語ボランティア活動に関心を持った参加者に対し、今後連絡をとり地域の日本語教室を紹介するなどして、実際の活動に繋げる方策をしていく必要がある。
- (2) セミナー参加者は、県全体で見ればまだごく一部なので、今後も「『生活者としての外国人』のための日本語教育」への理解者を増やしていくため、引き続き一般対象のセミナーを実施していく必要がある。

#### 4. 事業に対する評価について

##### (1) 事業の目的・目標

広い県土を有する本県では、外国出身者が集住しておらず、県内各地に散在して暮らしている。こうした外国出身者が、日常生活をする上で必要かつすぐに使える実用的な日本語能力を習得できるようにするため、平成28年度に文化庁からの委託を受け、文化審議会国語分科会による『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案についてを参考に指導者等との協議を重ね学習者の要望に合わせた教案を作るなど独自の工夫を加え、県内各地の日本語教室や外国出身者コミュニティと協働して日本語講座を実施するとともに、日本語ボランティアを対象としたスキルアップ研修会も併せて実施した。また、日本語教室空白地域において、日本語教室開設に向けたトライアル日本語講習会を開催し、さらには、これらの事業の成果を広く県民と共有するためにセミナーを開催した。

その結果、外国出身者が生活していく上で必要となる日本語の学習を継続して行う必要性を認識したほか、日本語ボランティアのスキル及びモチベーションが向上し、また、県民との事業成果の共有が進むなど、日本語教育体制充実への機運の盛り上がりが見られている。

また、平成28年度にトライアル日本語講習会を実施した日本語教室空白地域においては、新たな日本語ボランティア団体が立ち上げられ、日本語教室が開設・運営されることとなった。

こうした状況を受けて、平成29年度においては、主に平成28年度において事業の対象とした外国出身者及び日本語ボランティアに対し、平成28年度の事業実施で蓄積したノウハウをもとに日本語講座及び研修会を実施するとともに、引き続き日本語教室空白地域において、開設に向けたトライアル日本語講習会及び日本語ボランティア研修会を開催し、「生活者としての外国人」に対する日本語教育体制のさらなる充実・強化を図ることとする。

##### (2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

1 数値達成状況  
下記のとおり、ほぼ計画通り実施できた。

(1) 日本語講座  
時間数実績 62時間(計画 60時間) 外国人学習者数実績 236人(計画 210人)

(2) ボランティア研修会  
時間数実績 21.5時間(計画 20時間) 参加者数実績 171人(計画 100人)

(3) セミナー  
時間数実績 3時間(計画 3時間) 参加者数実績 43人(計画 30人)

2 県内の日本語教育の体制整備について

(1) 既存の日本語教室における体制整備については、県内5つの教室に通っている学習者の学習意欲を高めることができ、同時にその教室で活動しているまたは他の教室で活動しているボランティアに対し、「生活者としての外国人のための日本語教育」の理念と方法を学ぶ機会を提供することができた。

(2) 外国出身者コミュニティにおける体制整備においては、11のコミュニティのメンバーに対しメンバー同士で学ぶ心地よさを体感してもらい日本語学習の必要性を認識してもらうことができた。

(3) 日本語教室未開設地域である棚倉町での体制整備においては、今回の取組の協働団体(一財)棚倉町活性化協会主催による日本語教室の開設には至らなかった。しかし、取組終了後に研修会参加者の有志により棚倉町近隣の白河市で民間団体が立ち上がり、日本語教室の活動を開始することができた。なお、棚倉町での日本語教室については、(一財)棚倉町活性化協会の全面的協力により、来年度からの開設を目標に具体的な話し合いを行うことができた。

(4) 取組2および3の日本語講師は、県内で活動している7名の日本語ボランティアであり、取組2および3における指導案作成においては、日本語講師会議や普段のメール等での連絡で協議が重ねられ、実施後は報告及び振り返りの共有がなされた。これを通じて、日本語講師にノウハウが蓄積され、普段活動している日本語教室において、そのノウハウを還元する仕組みを作ることができた。

3 生活者としての外国人のための日本語教育の普及について

(1) 棚倉町でのボランティア研修会や成果セミナーの実施を通じて、日本語ボランティア未経験者に対し日本語教育に対する理解の深める機会が提供でき、理解者のすそ野拡大につなげることができた。また、既存の日本語教室でのスキルアップ研修会と成果セミナーを通じて、日本語ボランティア活動者に対しては、日本語教育への理解における質的向上が進んだ。

(2) 外国出身者コミュニティでの取組において、普段外国人との接点が少ない地域住民が実技講師やその補助者等の立場で関わることを通じて、外国人の日本語教育に対する理解が深まった。

##### (3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

(1) 各取組は、当協会単独ではなく、様々な関係団体と協働して実施する過程を経たことで、当協会と5つの日本語教室、11の外国出身者コミュニティ、(一財)棚倉町活性化協会、および福島大学との連携が進んだ。また、その際、実技講師として関わった福島消防署、生活協同組合コープふくしま生活文化グループ、キャリアリバー、相馬警察署生活安全課、福島消防署清水分署、会津大学、いわき市健康推進協議会(平支部)、福島県立岩瀬農業高校との連携も併せて進んだ。

(2) 取組2を通じて、ベトナム出身者コミュニティと実技講師の協力団体である生活協同組合コープふくしま生活文化グループがつながり2者間の交流が実現した。事業開始当初は想定していなかった連携ではあったが、外国出身者コミュニティと地域の関係団体がつながったいい事例となった。

##### (4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

「3 各取組の報告」に記載した「広報及び募集方法」に加え、報道機関に事業開催の告知を行い、当日の取材を依頼し、いくつかが新聞への掲載され地域への発信ができた。

また、取組4については、広く一般県民に参加を呼びかけた。

さらに、各取組終了後は、事業レポートとして当協会HPやFacebook、Twitter などで発信し、事業の成果について広く地域との共有を図った。

##### (5) 改善点、今後の課題について

(1) 取組1を実施した教室は5つだが、県内には他にも日本語教室があるため、今後も他の日本語教室での取組の実施を通じて、県全体における日本語教室の体制整備を図る必要がある。

(2) 取組2の同国出身者同士で学ぶことの居心地よさからくる日本語学習へのモチベーションを、外国出身者コミュニティ主催による日本語学習の場の設定に繋がるようにサポートしていく必要がある。

- (3) 県内には取組2を実施していない外国出身者コミュニティが他にもあるため、今後も引き続き他の外国出身者コミュニティで実施し、県全体での体制整備に繋げる必要がある。
- (4) 取組3の取組を通じて立ち上がったボランティア団体が棚倉町で学習者のニーズに合った日本語教室の活動ができるように、(一財)棚倉町活性化協会と協力しながらサポートしていくことが必要である。
- (5) 県内には他にも日本語教室未開設地域が存在するため、今後も他の地域における日本語教室開設に向けた体制整備が必要である。
- (6) 取組に関わる県内の日本語講師の数を増やし、中核的な日本語ボランティアの資質向上に繋げていく必要がある。
- (7) 取組の実施を通じて連携できる関係機関は県内には他にもあることから、今後も取組を通じて様々な関係機関と連携していく必要がある。
- (8) 日本語講座の事前打ち合わせには、日本語講師と実技講師だけでなく外国出身者コミュニティ代表も入ってもらうなどして、外国出身者コミュニティと地域の実技講師となる関係団体との連携を積極的に進めていく必要がある。
- (9) 日本語講師が作成した指導案や教材の蓄積をまとめ、様々な日本語学習の活動の場で使えるようにしていく必要がある。
- (10) 地域住民の日本語教育に対する理解をさらに深めていくために、今後も地域住民と外国出身者の接点を増やす工夫を様々な取組に取り入れていくことが必要である。
- (11) セミナー等の開催等を通じて、地域住民の日本語教育に対する理解のすそ野拡大とその深まりを図っていく必要がある。